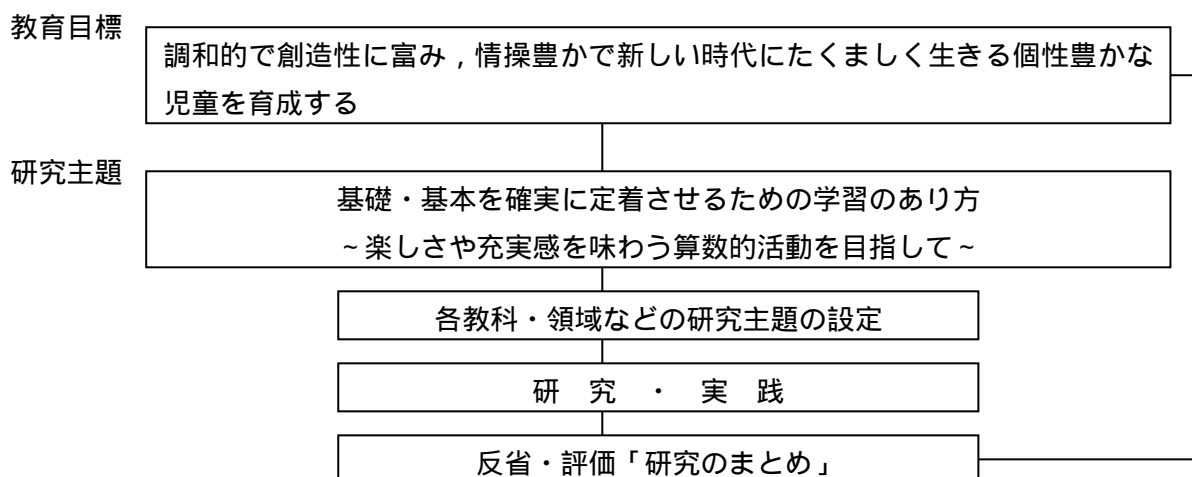


平成 16 年度 テーマ研修の研究内容

1. 職員研修の基本方針

学校教育目標・努力点並びに本年度の研究主題に即して、全職員一体となって、創造性あふれる研修活動を効果的に推進するとともに、研修の基本である個人研修についてもより一層の深化を図る。

2. 本年度の研修テーマ



3. 本年度の努力点

- (1) 研究主題に基づき、一人一人の子どもが意欲的に取り組む学習を目指して、理論に立脚した実践的な研究ができるようにする。
- (2) 全職員が共同研究として、共通理解や自覚をもち、主体的に研究が進められるようにする。
- (3) 研修内容の改善と運営の効率化を図り、研修の充実に努める。
- (4) 研究・研修に関する情報・資料の収集、整理を積極的に進め、その活用を図る。
- (5) 諸研究会・研修会への計画的、積極的な参加を推進する。
- (6) 外部講師による校内研修を計画実施する。
- (7) 総合的な学習、人権同和教育、生徒指導など実践的な研究や事例報告・研究にも積極的に取り組む。
- (8) 年度末には研究をまとめる。
- (9) 学習指導要領のねらいにそった研修を行う。

4. 研修計画の推進方法

- (1) 研究主題は、全職員が学校教育の全領域で追究していく。
- (2) 算数科の研究と授業提供には特に考慮し、計画・推進していく。
- (3) 総合的な学習の時間への取り組みを充実させる。
- (4) 校内授業研究を充実させる。

各教科・領域の研究授業は、各々が計画・実施することを原則とし、当該部員並びに同学

年，その他希望者が参加する。

研究主題に基づいた研究にするために，各教科・領域などで研究授業か実技研修を計画・実施する。

授業研究は，授業終了後に行い，授業をカットしないこととする。

指導助言者は，市教委指導主事等へ依頼する。

各自，共同研究のための提案授業ができるようにする。

研究授業に際して，教材研究・指導案検討などは，各部・各学年を中心として計画推進し，密度の高いものとする。

(5) 鹿児島市学校教育研究大会（清水小はAブロック）への取り組みを充実させる。

5. 校内研修について

- (1) 月行事に決められた研修日(月曜日・各種部会のある木・金曜日)に実施することを原則とする。
- (2) 職員研修は，各教科・領域等部会，各学年で計画し，それぞれの主任や世話係が中心となって企画運営する。ただし，小・中連携については，推進委員が別途計画・実施する。
- (3) 年間計画にない随時の研修会は，その都度研修係と打ち合わせ，事前に共通理解を図り実施する。

6. 校外諸研究会・研修会

- (1) 学校・学年の運営に支障のない限り，各自，校外の研究会や研修会に参加するように心がける。
- (2) 研究会・研修会等の内容や資料を提示し，研修内容について共通理解を図る。
- (3) 各種研究会・研修会の報告は，できるだけ早めに行う。どうしても時間がとれない場合には，紙上で報告を行う。

7. 研修のまとめ

- (1) 各教科・領域の研究の成果をまとめ，次年度に生かせるようにする。
- (2) 各自の研究の成果は，各自で記録，整理しておく。できれば，他の職員への報告の場を設定する。

8. 平成16年度の研究内容

(1) 研究の仮説

仮説1

自分なりの考えを持たせ，練り合う場での算数的活動を工夫することにより，子どもたちは算数の楽しさを味わい、多様な考え方を身につけるのではないか

仮説2

学習環境を整える（充実させる）ことにより，子どもたちは主体的に活動し、学習に深まりが得るのではないか。

仮説3

家庭との連携を密にし、家庭学習を充実させることにより、基礎・基本が定着するのではないか。

(2) 各仮説の研究内容

仮説 1

自分なりの考えを持たせ、練り合う場での算数的活動を工夫することにより、子どもたちは算数の楽しさを味わい、多様な考え方を身につけるのではないか

【参考】

学習過程「つかむ」「見通す」「調べる」「練り合う」「まとめる」「生かす」(15年度研究誌 P10~)

算数的活動・・・児童が目的意識をもって取り組む算数にかかわりのある様々な活動(指導要領解説 P14)

算数的活動について・・・研究誌 P14~16

【研究内容】

ア 算数的活動の意義について(確認)

イ 練り上げの仕方

ウ 算数の楽しさとは

エ 多様な考え方とは

仮説 2

学習環境を整える(充実させる)ことにより、子どもたちは主体的に活動し、学習に深まりが得るのではないか。

【参考】

学習環境・・・15年度研究誌(P12)

主体的・・・自分の意志, 判断に基づいて行動するさま(国語辞典)

【研究内容】

ア 学習環境のとらえ方・・・発表話型, 学習用具, 板書, ノート指導, 教具, 算数コーナーまで含めてもよいのでは?

イ 児童の発達段階に応じた学習のしつけ

算数コーナー・チャレンジプリント(研究誌 P31)の効果的活用及び活用の成果

発表話型・学習用具・ノート指導・板書の仕方などの指導(15年度研究誌 P12・13)の継続

仮説 3

家庭との連携を密にし、家庭学習を充実させることにより、基礎・基本が定着するのではないか。

【参考】

家庭との連携・家庭学習・・・研究誌(P29~)

基礎・基本・・・研究誌(P5)

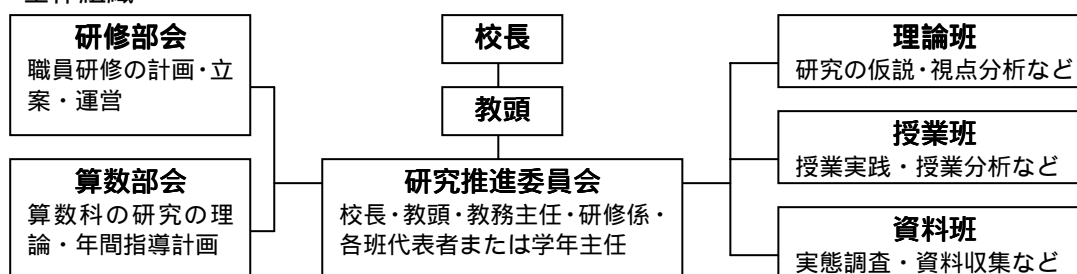
【研究内容】

「家庭学習のススメ」(研究誌・資料 P15~)の徹底

家庭学習についての調査・統計

(3) 組織

全体組織



班編成

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
理論班	武石	石橋	山下	恒益	鹿屋	藤崎
授業班	松山	後藤	小濱	小宮路	秋山	折田
資料班	山倉・加治佐	神園	榎園	山之内	西田	大山・澄川

各班の活動内容

理論班	算数科における理論研究，研究主題についての基本的な考え方，研究仮説，目指す子ども像，基礎・基本の分析，授業の視点，研究の柱 など
具体的内容	算数的活動の意義について（確認） 仮説分析（算数の楽しさとは，多様な考え方とは）
授業班	テーマに沿った授業実践，学習環境構成などの提案，自主的研究授業，研究授業分析，指導案作成及び検討会の主催，授業に関する設営についての提案，教材教具の開発 など
具体的内容	練り上げの仕方 学習環境のとらえ方 普通の授業実践の累積化（研究の継続・積み上げ）
資料班	実態調査及び分析，資料収集，研究授業時の記録，写真・ビデオ撮影，校内設営など環境整備，学習環境の整備
具体的内容	設営の見直し・再整備 児童の発達段階に応じた学習のしつけ 算数コーナー・チャレンジプリントの効果的活用及び活用の成果 家庭学習についての調査・統計

(4)年間計画

月日	内容	備考
5月10日	昨年度成果をもとにした年間継続指導内容の確認及び本年度の取り組み内容確認	仮説2の学習環境及び仮説3の家庭学習については昨年度の内容を継続し年度末にその成果を調査することとする
6月22日	3年生算数科指導案検討	仮説1についての検証
6月28日	3年生算数科研究授業	
9月6日	1年生算数科指導案検討	
11月8日	1年生算数科研究授業	
11月29日	5年生算数科指導案検討	
2月21日	5年生算数科研究授業	
2月28日	本年度研究のまとめ及び次年度の方向性検討	

(5) 3回の検証授業とその成果及び課題

学年	成果と課題	具体的内容
3年	成果	小グループでの話し合いを取り入れたことで子どもたち同士での考えの強め合い高め合いが生まれた。 子どもたちの言葉で授業が進んでいった。
	課題	ドット図をどこでどのように用いればよかったか(教具の活用) 子どもたちの考えを広げるために他の教具はなかったか。 子どもたちのつぶやきをどのように生かしていくか。(様々な考えにつながる意見を言っている。) 既習事項にもどるべき 木原田先生
1年	成果	導入で大きくてわかりやすい事象を提示したことで子どもたちが、課題をとらえやすかった。
	課題	ワークシートだけでなく子どもたちの意見や考えをもっと出させる工夫。 教具の与え方…一人に一セットずつあり、一人ずつ操作することが必要では 子どもたちにとって問題を解決しやすい物にするべきでは(C D)
5年	成果	ノートに学習の跡を残す指導が行き届いている。 子どもたちの意欲が活動に表れていた。
	課題	絵・図・式の各算数的活動の場が結びつく必要がある。 問題のイメージを持たせるために導入での問題の示し方を検討する必要がある。 指導目標に照らし合わせて指導形態のあり方を明確にしなくてはならない。(TTのありかた) ヒントカードの使い方(目的・効果) 練り上げの段階で子どもたちの考えを交流させる必要がある。
全体として		練り上げの際になかなか多様な考えが見られなかった。 導入で問題をとらえきれていない。(既習事項とのつながり) 問題解決の場においてワークシート・教具・ヒントカードを使う目的・方法をその効果を考えて吟味する必要がある。 練り上げの場における説明の仕方や考えの交流のさせ方を検討する必要がある。(表現力の育成)

9. 本年度の研究の反省

仮説をもっと具体化する必要がある。仮説の中に具体的な手だてまで含めていた方がよいのでは。
研究授業の前にもっと班会をもち、全体でも授業について共通理解しておく必要がある。
班で集まる時間がなかなか作れないので、学年ごとに動く組織にしてもよい。
表現力の育成について研究していけばよいのではないだろうか。(うまく自分の考えを示せない。他との考えの交流がなかなかはかれない。)
表現力の育成で研究する場合は教科を絞って研究する必要がある。

10. 来年度の研究の方向性(3月17日研修係会)

研究主題は本年度と同様で算数科における表現力の研究を行う。
授業を通した研究とするが、1学期～夏休みぐらまでは、育てほしい子どもの姿を共通理解し、授業で明らかにする内容を明らかにする。